

No.2879

2018-2019年度

会 長 上野山 栄作

幹 事 嶋田 崇

R広報委員長 菅原 佳典



島海碩書

第2640地区

例会日 毎週木曜日 12:30
 例会場 紀州有田商工会議所6F
 〒649-0304
 有田市箕島33-1
 紀州有田商工会議所2F
 有田ロータリークラブ
 Tel (0737) 82-3128
 Fax (0737) 82-1020
 創 立 昭和34年6月15日
 ホームページ <http://www.aridarc.jp>
 e-mail office@aridarc.jp

～ 四つのテスト 言行はこれに照らしてから ～

1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか



2018-2019年度クラブ方針

Take Action and Enjoy!
 行動を起こそう！そして楽しもう！



次回のお知らせ

- 平成30年8月9日 第2881回
 ・会員増強フォーラム 会員組織委員会
 ・ソング：「それでこそロータリー」

本日のプログラム

- 平成30年8月2日 第2880回
 ・外部卓話：井上 信太郎 氏 (善兵衛農園代表)
 「地域のファンを増やすために自分ができること」
 ・ソング「君が代」「奉仕の理想」

前回の報告 (第2879回例会)

開催日 平成30年7月26日(木)

点 鐘 (上野山(栄)会長)

ゲストの紹介 (上野山(栄)会長)

ゲスト: 木川 剛志 和歌山大学観光学部 准教授
 和歌山大学 仲井間 希美様、川島 拓様
 今村 未来様、倉貫 滉平様
 島田 麻帆様、萬野 晴奈様
 AGW 有井 安仁様、楠部 睦美様、金子 巧様

会長の時間 (上野山(栄)会長)

「ミャンマーに心馳せて」

本日は和歌山大学 観光学部 木川准教授はじめ研究室の皆様、また補助の皆様には有田ロータリークラブの例会にご参加くださいまして有難うございます。後ほどのロータリーデーよろしくお願ひします。

昨年、初めてミャンマーを訪れた際、一番心に感じたことは一般国民の勤勉さ・誠実で道徳的で素直なところでした。実はそれが彼ら自身の発展の妨げになっているとしたらどうでしょうか？

ミャンマーではイギリスの支配から独立した1948年から70年間、20以上の少数民族勢力との戦闘が続いてきました。最近では西部ラカイン州のイスラム系少数民族ロヒンギャに対する国軍等による“民族浄化”があり国際的にも大きな問題となり、昨年8月以降で約70万人のロヒンギャが隣国のバングラデシュに避難し、厳しい生活が今も続いています。一方、ミャンマー北東部での反政府活動は、過去60年にわたり続いています、世界中で大きく取り上げられることはまれであり、「忘れられた紛争」と呼ばれることもあります。今年に入ってから状況が劇的に悪化して

おり、すでに2万人が避難を余儀なくされています。今年11月に行う有機肥料を使った職業訓練事業は首都ヤンゴンに近い場所ですので紛争による心配は全くありません。

近年の経済成長が注目を集めている一方で、最近では改革機運の低下もささやかれています。ADB(アジア開発銀行)の最新報告書によれば長期的な視点で、国民の真の利益を考慮することが出来る正しい政策メニューを選択すれば、ミャンマーの潜在成長率は2030年には9.5%に達する可能性があるといえます。また、その上がる要因の一つは非常に勤勉・誠実で道徳的な国民性だと。ただし、人材の質を高めるための教育が必要だと書かれています。持続可能な成長のためには、外国企業が技能開発や人材への投資を長期的に取り組む必要があり、教育制度をあらゆるレベルで包括的に改革しなければならないのだと。続けて、もう一つの課題は、経済成長や富が大都市に集中し貧富の差が拡大していることです。「経済的チャンスや社会保障が公平に行き渡らない」と指摘します。かつての日本の戦後のように、勤勉だけでは外国企業などには太刀打ちできず正直者がバカを見ている状況ではないでしょうか。

私たちが行う都市部から離れた農村部での教育活動はかなりの必要性があり、成果も出やすい事業であり持続可能性に満ちていると考えます。本年のミャンマー事業は11月22日に関西国際空港を出発し、23日に昨年とは違う新しい村で「有機肥料を使った職業訓練事業」を行うと同時に午後からは両親を亡くした子どもたちの学校へ寄付を行い、昨年実施した村への現地視察と意見交換を行う予定です。その日は1日しっかりと事業を行い、夜はヤンゴンに入り、翌24日はヤンゴン市内でミャンマー学友会(米山記念奨学生OB)の方々と交流を考えています。24日の深夜にヤンゴン空港から帰路につき、25日帰国します。後ほど橋爪誠治国際奉仕委員長から募集の報告がごぞいます。

本日はロータリーデーですが、チケットの関係でミャン

マーへの参加者の募集締め切りが迫っていますので、ミャンマーへと心馳せて頂きました。ご参加よろしくお願ひ致します。

幹事報告 (嶋田(崇)幹事)

1. 檜畑G事務所より公式訪問(10/11)のガバナーアドレスの資料(pdf)が届く。
2. 本日、前期会費納入日となっています。振り込んで下さる方は近日中にお願ひします。
3. 「平成30年7月豪雨」の義捐金募集は本日まで。ご協力宜しくお願ひします。
4. 雑誌「the Rotarian」は回覧。

委員会報告

* 地区R財団委員会

(嶋田(崇)地区R財団資金管理小委員会委員)
7/21(土)、13時30分～16時、ガバナー事務所
地区補助金申請クラブの書類審査を行う→当クラブからの申請額105000円は承認された。

* 国際奉仕委員会(橋爪(誠)委員長)

平成30年11月22日～25日 ミャンマー国際奉仕活動を計画しています。ご参加のご検討をお願ひ申し上げます。参加意思確認は、来週までとさせていただきます。

* ロータリーデー部会(川口委員長)

本日のロータリーデーの連絡とお願ひ。

出席報告 (木本例会運営委員長)

本日の会員数30名
(出席規定免除会員9名)
出席会員数25名
(出席規定免除会員9名)
83.33%
7/12 80.00%
MU: 橋本君

ニコニコ箱の報告 (松村SAA)

上野山(栄)君: 本日はロータリーデー。皆様のご協力ですべての事業にしましょう! 和歌山大学の木川様、学生さま、又、AGWの皆様ありがとうございます。よろしくお願ひします。

嶋田(崇)君: 木川先生、本日ご指導宜しくお願ひします。

川口君: 本日はロータリーデー、皆さん、宜しくお願ひ致します。また、本日ご協力頂く皆様に感謝申し上げます。

橋爪(誠)君: 木川先生、ゼミ生の皆様、サポーターの皆様、ようこそ有田RCへ。本日よろしくお願ひいたします。

上野山(英)君: 和歌山大学、木川先生はじめゼミ学生の皆様、そしてAGWの皆様、本日よろしくお願ひします。

木本君: 木川剛志様、本日の合同ワークショップ、宜しくお願ひ致します。

菅原君: ロータリーデーワークショップ、木川先生宜しく

お願ひ致します。

橋本君: 木川先生、ようこそ有田RCへ。本日のロータリーデーよろしくお願ひします。

岩本君: ワークショップの準備で福祉センターへ行きましたが、終了しておりまして有難うございました。

宮井君: 本日ロータリーデーおめでとうございます。地域活性コンテストワークショップ事業盛会を祈念致します。

上野山(捷)君: 木川先生、本日の卓話よろしくお願ひ致します。

脇村君: 木川先生、本日の卓話よろしくお願ひします。

石垣(洋)君: 木川先生、本日の卓話楽しみです。

嶋田(ひ)君: 木川先生、本日は宜しくお願ひします。

岩橋君: ロータリーデー担当者の皆さん、ご苦労さまです。

中元君: 本日はロータリーデー第1弾です。みなさん、頑張りましょう。

丸山君: 毎日猛暑ですが、ワークショップ気合で乗り切りましょう。ファイト一発!

井上君: 本日のロータリーデーは出席できなくて申し訳ありません。

松村君: 木川先生、ゼミ生の皆さん、AGWの皆様、ありがとうございます。いっしょに楽しみましょう。

閉会・点鐘 (上野山(栄)会長)



有田RC創立60周年記念
ロータリーデー 地域活性化イベント
大人たちへの政策提言
「僕らが有田を楽しいまちにする」

<上野山栄作会長 感想>

まずは、応募してくれた学生の皆さんに感謝いたします。今回の企画を理解してくれ応募に至るハードルを超えてくれたことが今回の最大の成功であったと思います。この事業は応募者を確保することが当初からの課題でしたが、集まれば、ある程度の話(企画)が出て来ると思っていましたが、最初バラバラに座ってもらい自分たちの夢を共有した時、夢の質の違いに少し戸惑いました。あなたの夢=将来の仕事と考える学生が多く居ました。今日の学生はとてもしっかりした夢を描いていて、この夢の実現と楽しいまちの企画をマッチングさせることは容易では無いと



いう不安もありました。しかしながら、テーブルリーダーやゼミ生の方々が巧みに話を膨らませ、ワークショップの最後には素晴らしい企画が出来上がりました。

最初、不安そうな参加者の皆さんでしたが、最後にはキラキラと輝く笑顔が溢れ出し、次の8月25日の発表に向けての計画を話している姿を見て、この企画は間違いではなかったと実感できた瞬間でした。私たちはこれからの発表までの期間に学生との沢山のコミュニケーションを取り、彼らにどれだけ力を貸して行けるかが、充実した発表への鍵であると思います。ロータリアンの手腕が問われる期間であり、やりがいを感じます。

<木川剛志コーディネーター 感想>



和歌山大学
観光学部 准教授
木川 剛志 様

7月26日に開催された「大人たちへの政策提言：僕らが有田を楽しい街にする！」でコーディネーターをつとめさせていただきました。また、私のゼミ生たちもロータリアンとともにファシリテーターとして参加させていただきました。大変お世話になりました。ありがとうございます。

「若者の夢」。使い古されたような言葉に聞こえますが、実は日々新しくなる言葉です。地域に生まれた子どもたちは地域の空気をいっぱい吸って若者になりますが、いつしか老いていきます。でも、新しい若者が登場し、彼らの夢はいつも新しくなる。

こんなあたりまえの新陳代謝が崩れようとしています。国立社会保障・人口問題研究所の資料に基づく、現在一億二千万人を超えている日本の人口も30年後には一億人を割り込みます。和歌山県の人口は30年後には約30%減り有田市では45%、有田川町でも20%程度減ります。人口が減るだけではありません。高齢化率はどんど



んと増していきます。

こんな過酷な時代。若者たちは都会へと移住するしかないのでしょうか。いや、そうじゃない。この流れはきっと変わるはずだ。でもどうすれば。そのために若者の夢を大人たちが聞き、その夢の舞台が有田であるためにはどうしたらいいのか。30年後に彼らが有田で活躍するためには、現在地域社会を担っているロータリアンたちは今、何をすればいいのか。それを探るのがこの企画でした。

有田に縁のある中学生高校生たちが集まりました。きっと彼らは有田を出たいと言うに違いない。私のその思い込みはもろくも崩れました。彼らは地元を愛し、地元で生きていく夢を持っていました。自分の夢を友人に大人に語り、目を輝かせていました。

8月25日には彼らはその夢をさらに膨らませて会場に帰ってきます。これからはそれを受け止める大人たちの器量が試されます。その情熱的な時間に立ち会えることが今から大変楽しみです。



地域活性化コンテスト 大人たちへの政策提言

「僕らが有田を楽しいまちにする」発表会

8月25日(土)

場所：有田市文化福祉センター

時間：13時30分～16時

